



## 余熱利用施設について

### 1 前回の要望

- ・ 温浴施設
- ・ 温水プール
- ・ 幅広い年齢層が楽しめる施設
- ・ 他の地域の方も利用できる（したくなる）施設

### 2 余熱の使用可能量

余熱を最大限発電に利用した場合に熱回収施設からの使用可能な熱量は、プラントメーカー調査結果によると、約 3,000～5,000MJ/h と示されています。

#### ★使用可能量から想定される余熱利用形態

約 3,000～5,000MJ/h の余剰熱量とした場合、次のような利用が想定されます。

（ごみ処理施設整備の計画・設計要領 2006 改訂版を基に算出）

#### 例 1) 温浴施設単独型（必要熱量：2,060MJ/h）

福祉センター給湯、福祉センター冷暖房（ともに収容人員約 60 名）

#### 例 2) 温水プール単独型（必要熱量：3,190MJ/h）

温水プール（25m）、シャワー設備、管理棟暖房

#### 例 3) 温浴施設、温水プール併設型（必要熱量：5,250MJ/h）

※ 温浴施設と温水プールを併設した場合、想定される余熱使用可能量を超えてしまう。

### 3 事例紹介

#### 他地域の事例

最近完成した施設について、比較的来場者数の多い事例を紹介します。

(ごみ焼却場の余熱利用施設に限定しない)

#### 事例 1) 新潟県見附市立みつけ健幸の湯「ほっとぴあ」(2016年8月25日オープン)

《温浴施設単独型》

- ・地上3階建 延床面積：約2,200 m<sup>2</sup>
- ・建設費：約12億5,000万円
- ・来場者数：開業7か月で12万642人。年間20万人ペース。
- ・主な施設：大浴場(男・女)、炭酸泉や電気風呂、つぼ湯など

9種類の風呂、岩盤浴(ロウリュウのほか、温度や

岩盤が違う三つの部屋とクールルーム)、ホットフロア、レストラン、多目的室、

カラオケルーム等

- ・指定管理料：500万円(1年間) ※1階公共スペースのみ

★特徴：充実した岩盤浴フロア、ユニークな指定管理条件(赤字であれば民間企業の責任、黒字になったら利益の半分を市に納入)



#### 事例 2) ふじみ野市立余熱利用施設「エコパ」(2014年6月17日オープン)

《温浴施設+小規模プール併設型》

- ・地上1階建 延床面積：約1,818 m<sup>2</sup>
- ・建設費：約11億9,400万円
- ・来場者数：年間約20万人
- ・主な施設：和風浴室、ローマ風浴室、露天風呂、サウナ、健康浴槽バーデプール、レストラン、大広間、多目的

室、和室、カラオケルーム等

- ・指定管理料：約1億3,400万円(H29.4~H30.3)

★特徴：県内初のバーデプール(健康増進のために、水中ウォーキングやマッサージを行うプール)、利用者における60歳以上の割合95.2%

